

まちづくりの地域情報紙

e-NET 6500
EIGENJI

We Are The One
ONE
みんなでひとつ



藤切神社の大祭 2023年4月2日
(関連記事 3ページ)

情報紙 第108号 2023年 5月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



防災気象官から安全対策を学ぶ 奥永源寺アウトドアライフ推進協



3月27日、本格的なアウトドアのシーズンを前に、道の駅奥永源寺溪流の里で安全対策研修会が開催されました。

昨年の夏、大雨による愛知川の増水で発生した水難事故の再発防止のため、彦根地方気象台防災気象官の小野善史さんを講師に迎え、奥永源寺地域アウトドアライフ推進協議会が実施しました。講師は、鈴鹿山脈は特に大阪湾からの南西風や伊勢湾からの南東風により大雨になると特徴を説明され、県境付近で強く降った一時的な雨が、勾配の急な河川を流れ落ちて急激に短時間で水位が上昇したと事故を分析されました。気象庁から随時発信する気象情報や予報に注意して、観光客への周知など早目の安全確保に努めていただきたいと話されました。

環境にやさしいバイオトイレ 竜ヶ岳登山口の石樽峠に完成



鈴鹿10座のひとつで、初心者コースとしても人気の竜ヶ岳登山口の石樽峠にバイオトイレが完成し、4月から供用が開始されています。

このトイレは、微生物入りの750リットルの水を常に循環させて、外部に水を排出しないため環境にも優しく、排泄物はバクテリアで分解して貯留し、800人程度の利用まで汲み取りは必要がありません。トイレの特徴は東近江市産の木材を使っていること、電気の供給がないため太陽光パネルと蓄電池を設置していること、雨水を貯留するタンクを設置していることなどです。また、トイレの維持管理や登山道整備に充当するための環境保全協力金の募金箱を初めて設置されています。事業費は、造成費、建築費合わせて約1,800万円です。

永源寺八十八ヶ所の石仏 よだれ掛け新調し、すっきり



本山永源寺裏山にある「永源寺御山八十八ヶ所」参拝コースにある石仏に新しいよだれかけが寄進され3月24日、地元をはじめ近隣のボランティアの皆さん11人によって掛け替えられました。ここは、明治33年に四国八十八ヶ所の巡礼を果たした地元の女性8人が、もっと身近に八十八ヶ所の巡礼ができればと寄付を募り、石仏90体を巡る1kmのコースを完成させたという歴史があります。平成になって一度整備されましたが、倒木や参道の荒廃により平成29年からは「おいでえな高野」が中心になって協力していただける方に呼びかけ、コースの整備や案内板の取り付けなどを行ってきました。当日参加された皆さんは険しい参道の掃除やよだれかけの掛け替えに2時間かけて汗を流しました。

野草を見つけて、天ぷらで食べよう 早春ハイキングで自然を楽しむ



2月26日、雪が残る寒い日でしたが、まちづくり協議会主催で、一足早い早春ハイキングに出かけました。講師の緑の少年団代表の堤信二さんから春の野草の説明を受け、5組15人の参加者は池之脇町のめがね溜まで野草を探しながら歩きました。途中雪の中からノビルやアザミを見つけ大はしゃぎ。天ぷらにしてもらうため持ち帰りました。永源寺グラウンドまで戻るとスタッフの皆さんから用意していただいた豚汁と野草の天ぷらの昼食。冷えたからだとお腹ペコペコの子どもたちは、豚汁とちょっぴり苦みのある野草の天ぷらもペロッと完食しました。普段なかなか歩くことのない畦道を歩き、野草をいただいた参加者らは、自然豊かな地元地域の良さを満喫する一日でした。

改革しながら伝統を受け継ぐ 藤切神社（甲津畑町）の春の大祭

甲津畑町にある藤切神社の春の大祭が、4月2日に開催されました。長引くコロナ禍の影響で、練り歩きや太鼓、鐘を叩く行事も一部中止していましたが、今年は従来どおりの形で行うことができました。

大祭当日は、宮司、社守を先頭に、十人衆や弓をもった弓矢という宮役による行列が、自治会館から幟や提灯が並ぶ参道を通って、太鼓と鐘の音が響く神社まで練り歩きました。

また、拝殿では、この一年間に産まれた子どもたちが、宮司から名前を呼んでもらい、お祓いをしていただくお宮参りも例年通り行われました。

このように伝統や格式を重んじてきた藤切神社も、人口減少や少子高齢化という時代の波には勝てず、階級制度や行事内容・衣装などについて検討を行っているところであります。その改革の一環である衣装については、今回の春の大祭から法被に変更し、披露を兼ねて着用しました。

町内在住者の人口減少が進み、宮役加入者もほとんどない中で、藤切神社の伝統文化をこのままの形で継承していくことは非常に困難であり、伝統の保存という形でも語り継いでいきたいと考えております。

一方で、近年、書籍やインターネット・SNSで藤切神社が取り上げられ、パワースポットとして県外からも多くの方が参拝にいられていることもあり、氏子一同、神社の保存には努めてまいりたいと考えています。

（甲津畑町からの

情報提供）



新調された法被を纏った宮役による練り歩き

知育教材「カプラ」であそぼう 作って崩して、創造性を育む

永源寺コミュニケーションセンターでは、今年度初めての講座として3・4・5歳児の親子を対象に、「親子で一緒にカプラを対象に、う」を3月4日に開催しました。

「カプラ」は、フランス生まれの積み木のこと。非常にシンプルな積み木ですが、遊び方はさまざま。子どもから大人まで楽しむことができます。

この日は、カプラ正規販売店のエール株式会社の岩部祐明さんから、楽しい遊び方をいろいろと教えていただき、タワーや建物、線路、トンネルなどの街づくりに挑戦。大人も子どもも夢中になっ

てカプラを積み上げ、立派な街を完成させました。

また、大人だけで大がかりなナイアガラの水を作成し、最後に子どもが手でそと作品を押すと、次々と軽快で心地よい音を立てながら、本当に滝が流れるように崩れていき、その素晴らしい参加者全員が感動し、拍手喝采でした。

（永源寺コミュニケーションセンターから
情報提供）



- § 1 地域資源を未来に繋ぐー林業遺産小椋谷ー
（国研）森林総合研究所 山下直子 氏
- § 2 100年の森づくりビジョン（森林整備）の展望
市農林水産部林業振興課 濱中亮成 氏
- § 3 東近江市博物館構想について
市文化スポーツ部歴史文化振興課 西川寛 氏

永源寺地区 まちづくり フォーラム



鈴鹿の自然と歴史文化を活かす

暮らしやすい地域づくりを考える「まちづくりフォーラム」が、2月23日、永源寺コミュニティセンターで行われました。

このフォーラムは、まちづくり協議会とコミュニティセンター、自治会連合会が、ともに地域の課題を共有して、課題解決に向けて暮らしやすい地域づくりを考えていたたくきかけをつくろうと企画され、今年で3回目。今回は、「鈴鹿の自然と歴史文化を活かす」をテーマに行われ88人が参加されました。

フォーラムでは、テーマに関連した話題や取り組みを3人の方からお話していただいた後、参加者と意見交換が行われました。

■世界発！「木」から造る

「木の酒」プロジェクト■

「地域資源を未来に繋ぐ」をテーマに発表（発言要旨別掲）された山下直子さんは、森林総合研究所で行われている「木の酒」プロジェクトを紹介。スギ、シラカバ、ミズナラ、東近江市産のヤマザクラなど10種類の木から作るお酒に世界で初めて開発され、「東近江市で育った木から造るお酒を、東近江市の木地師が作る器で飲むというのが、わたしの夢」と、話されました。

「木の酒」は、粉碎しただけの木を発酵させて造るもので、樹種特有の豊かな香りが

特徴。木の価値を高め地域材を活用した地域再生をめざす取り組みとして、東近江市をモデルに事業ベースでの実践実験が進んでいます。

■新たな技術を活用した

森林境界明確化事業■

市林業振興課の濱中亮成さんは、市で進めている森林経営管理制度について、「永源寺地区の森林施業率は3割。森林資源の活用ができていない状況です。この制度は、手入れが行き届いていない森林を市が仲介役となって所有者と森林組合など林業事業体を繋ぎ、健全な森林を作っていくというものです。奥永源寺7集落と九居瀬で実施し、集落の森づくりの方針が策定されています」との現状報告がありました。

また、経済林として活用していくうえで、欠かせないのが森林境界の明確化です。令和4年度から国の制度を活用して航空レーザー計測や赤色立体図の作成による境界の明確化に着手。「これにより作業面積は大幅に増え、森林施業に結びつくところから毎年100ヘクタールを目標に実施していく予定」との説明がありました。「森は人が手を加えて育ってきた。人が関わることで豊

かな森ができることを願っています」と結ばれました。

■博物館構想により

森の文化の博物館を新設

最後に市歴史文化振興課の西川寛さんは、市の博物館構想について、「市内にある個々の博物館のテーマ性を生かして総括的な部門を庁内に置き、アーカイブ機能を強化するとともに、不足するテーマである森の文化博物館を新たに設ける計画です」と、概要を説明されました。

博物館構想の中で計画されている森の文化博物館は、「伝える」「繋がる」「誘う」「踏み出す」をキーワードに、森に育まれた歴史文化を次世代に伝える、鈴鹿の山の価値を発信し繋げる、体験・交流事業を介して地域資源に誘う、脱炭素社会の実現に踏み出すという機能を持たせたもので、建設予定地を蛭谷町の「木地師やまの子の家」の敷地内に決定。5年度に基本計画を策定する予定であるとの説明がありました。「歴史文化は、その地にあってこそ価値が高まり機能が発揮される。計画段階から完成後の管理運営に至るまで、皆さんに応援団になっていただきたい」と締めくくられました。

参加者の声

◆良かった点や課題は

○テーマが大きく深いので、情報を得るだけになりましたが、勉強になりました。
○外部の専門家の話は、とても面白い。勉強になった。若い人がもっとたくさん参加した方が未来につながっていくと思う。
○いろいろな視点で永源寺のことを考えてくださる方がおられることを知ることができました。もっと若い人たちに地元の良さを知ってもらって、地元に残ってもらえるようになればいいと思います。

◆「地域資源を未来に繋ぐ」について

○森林の関わりについて、今動き出さないと未来の森林を活かすことはできない。10年から100年単位先の森の姿を思い描きながら関わる必要があるとても大きな仕事となる。

○非常に興味深いお話でした。今後、森林、木材の活用は人気が出てくると思う。木のお酒は飲んでみたいです。

○現在の森への関わり方が未来の森をつくっていくというのは、まさにその通りだと感じた。

◆「100年の森づくりビジョン」について

○森林所有者にとって境界の明確化は大事なことだと思います。施業が追いつかなくても境界が次の世代に残る。一日も早く明確化されたいと思います。

○本来の間伐、切り捨て間伐、除伐、枝打ちの保育作業を中心に進めて欲しい。

○良い事業だと思うし、ありがたいと思う。反して、税金であったり、ドローンで境界明確化ができてしまっは、山に対しての所有者の責任感や興味が減りそうで心配。

◆「東近江市博物館構想について」

○「人を育み、人をつなぐ」という目標は素晴らしいと思いますが、10年後、今永源寺にいる10代の子どもたちが何人残ってくれるのでしょうか。まず、その子どもたちが地域に根差して生活できる環境を整えてほしい。

○市内に大小さまざまな博物館がある中で上手いこと連携が取れるようにしていくことが大事ですね。森の博物館は、奥永源寺に予定されているようにうかがいましたが、良いものになればと思います。

○博物館構想についての概要が少し把握できたが、市民が効率よく活用できるようにする必要があります。上手く活用できるような工夫、仕掛けも並行して考えてください。

地域資源を未来に繋ぐー林業遺産小椋谷ー

(国研) 森林総合研究所 山下直子 氏



滋賀に住んで16年になる。出身は北海道。東近江市はクオリティの高い地域資源がたくさんある。これら地域資源を評価する動きとして、いろんな遺産事業があり、日本森林学会の林業遺産もそのひとつで、「木地師文化発祥地」として、東近江市の小椋谷を2019年に認定させていただいた。

市の地理的特徴は、日本海、太平洋、瀬戸内海の3つの気候が交わる地域で、いろんな生物が多様に存在する。奥山と里山では標高差があり多様な樹種が存在し、コナラやアカマツが多いのが特徴。コナラやアカマツが多いのは、人が古くから燃料や肥料に、山林を利用してきた証しといえる。

国内の広葉樹林は、かつて薪炭で使われていたが、戦後のエネルギー革命で使われなくなり、放置された時代が長く続いたので資源量は豊富にある。針葉樹の5倍以上の蓄積量である。ただ、シカによる食害やナラ枯れで劣化が進んでいる状況にある。

資源はたくさんあるが、国産広葉樹の活用は進んでいない。最近になって輸入広葉樹の価格が高騰しており、国産材に目を向けられるようになってきた。輸入の割合は8割。この輸入量を国産材に置き換えた場合、国内素材生産の半分に匹敵し、国産広葉樹を活用することで、需要の創出や雇用の創出、木材産業の振興が図れると考えている。

ただ、国内広葉樹の9割は安いチップとして使われている状況にある。この安く使われてしまっている国産材の価値を高めていって、広葉樹を有効活用する仕組みをつくっていかねばならないと考えている。東近江市には、あらゆる場面で木を使う推進協議会で地元産の木材を使う取り組みが行われているが、全国の先進事例のような行政の支援も必要と考える。

人口減少の時代、いろんな所で人材が不足している。山の現場もしかり。林業は、世代を繋ぐ生業によって培われてきた。圧倒的に時間軸が長い。木が大きく育つまでのサイクルが長く、技術者の人生を超えてしまう。今現在、わたしたちが見ている森林は、過去の人々が関わってくださったものの結果といえる。今の森林にわたしたちがどう関わっていくか。森との関わりの中で培ってきた技術とか経験を次世代に繋いでいく。そうすることで、資源が持続的になり、ひいては地域の存続に関わってくるのではないかな。

一研究者として東近江市に関わって、森の奥深さ、懐のふかさを本当に感じているところ。ここの地域ならこのような地域資源を未来に繋いでいくことが実現できると感じている。

樹種により色が異なる発酵液



「木の酒」
プロジェクト
写真提供：森林
総合研究所

クローズ アップ☆

アフターコロナの 永源寺老人クラブの活動



3年ぶりの親睦旅行

永源寺老人クラブでは活動の一環として、毎年、友愛安否活動を実施されています。コロナ禍前は、永源寺地区内にある施設も訪問されましたが、現在は70歳以上の1人暮らし、80歳以上の老夫婦、また寝たきりの方など、約70人の会員宅に役員さんがメッセージが書かれた挨拶文と干支を描いたカード、粗品を届けられています。受け取られた方々からは、暖かい心遣いに感謝の声が届いています。

令和4年度は3年ぶりに日帰りの

地域クラブでは会員の高齢化や新会員の加入が少ないなどの理由で、活動に支障が出てきているようです。そうしたことから、永源寺老人クラブを退会される地域クラブも出てきているようですが、個人での参加も歓迎されますし、事業内容の検討も含めて、永源寺地域のみなどで交流・親睦の輪を広げていきたいと声掛けを進めておられます。

親睦旅行を実施され、またグラントゴルフ大会やディスコン大会など会員の交流の場を継続して実施され、環境美化の取り組みでは花いっぱい運動や、清掃奉仕作業も行われています。ほかに健康料理教室や子どもと一緒にあつまれ！げんキッズ「おやつ作り」などいろいろな事業をされています。



ひとり暮らしのお宅などに配られたメッセージカード

永源寺
岩鰻の里
バーンズド
釣る・遊ぶ・食べる！



いwana・あまごの直売
釣り・つかみ取り・BBQ

滋賀県東近江市甲津畑町67

TEL 0748-27-2072

営業時間 7:00~17:00

年中無休（1月1日のみ休み）

こんにちは保健師です⑬

肩こりをやわらげる体操

前回に続き、健康の悩みの多い「肩こり」の体操です。

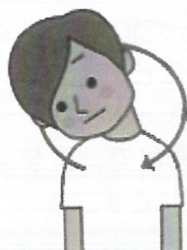
①片方の腕をもう片方の腕で抱えるようにして、15秒引っ張る。



②背中を丸め両掌を胸の前で合わせて強く押し合う。



③両腕を伸ばし、頭を左右にまわし、首周囲の筋肉をほぐす。



移動図書館「いきいき本の元気便」が 本と元気をおとどけます

移動図書館「いきいき本の元気便」は、約500冊の本をのせて、図書館から遠い地域を定期的に巡回しています。



また、ご要望に応じて、地域みなさんが集まるサロンや集いの場へも出張します。本だけでなく、音読体験や保健師さんによるおはなしと



いったプログラムも用意しています。

詳しくは、市生涯学習課「ちょっときてえな講座」のメニュー表をご覧ください。か図書館へご相談ください。

こちらは、定期巡回を行っている地域以外の方も利用できます。

移動図書館の定期巡回日は、毎月の情報版をご覧ください。

永源寺図書館 IP 050-5801-8050

新しい まちのお巡りさん

今年度から、政所駐在所に赴任してまいりました梶原凌也（かじはら りょうや）です。

令和3年採用で、五個荘交番、沖野交番で勤務してきました。

まだ赴任して少しの日数しか経っていませんが、奥永源寺地域の良さを身を持って感じています。

若さを生かして、奥永源寺地域の安全と景観を守るために、一生懸命勤務します。これから、よろしくお願いいたします。



鈴鹿の山の清らかな水と
自然の豊かな恵みで育った



清流の里
近江 永源寺米®

創業1890年(明治23年)

株式会社 **カネキチ**

滋賀県東近江市山上町1867-1

TEL 0748②70036・FAX 0748②70384

☎ 無料 0120-270036

第1第2
低温倉庫完備



ドローン撮影
kazu style
川崎 一路

憧れの甲子園の土を踏む

彦根総合高校 **丸山智史くん** 永源寺 高野町

第95回選抜高校野球で、近畿代表として彦根総合高校が初出場され、憧れの甲子園出場を果たされた丸山智史くんにお話を聞きました。

Q 甲子園出場おめでとうございます。憧れの甲子園グラウンドはいかがでしたか。

A 子どものころから目標としていた甲子園のグラウンドに立てたことをとても嬉しく思っています。地方大会と違って大きな舞台に立つ

てみると、観客やたくさんの応援に圧倒されそうになりました。

Q 進学校を決めた理由は。毎日の練習はたいへんですか。

A 監督の宮崎先生の指導方法に魅力を感じて彦根総合高校に進みました。学ぶことが多くて、常に新鮮な気持ちで日々を過ごしています。わたしの長所は、一つのことに対して、継続して練習しているところだと思っています。

Q 夏の大会に向けての意気込みは。

A もう一度、甲子園の舞台で、スタメンとして立てるように頑張りたいです。

いまさらといわれるかもしれませんが、今回のWBCは、日本中が熱くなり、いろいろなことを教えてくれました。すべての試合が、本当に劇画を読んでいるような、いやそれ以上に夢中になるストーリーでした。今でもそれぞれの場面を見ると、思わず感動してしまいます。目標に向かってチーム一丸となって突き進む姿には、本当に勇気づけられました。また、お互いを信じて、支えたえ合うことの大切さを教えられました。普段からの関係が、いざという時の信頼となることもよくわかりました。

今の社会、特にコロナ禍に入ってから社会は人と人のつながりが希薄になり、人間関係の構築ができていないように思われます。やはり、顔を合わせ、目を見て話すことは重要であり、そうすることによって相手の気持ちや想いをくみ取ることができます。私はいま、青少年を対象とした仕事に就いていますが、日々の業務のなかで子どもたちが自己主張をしたいのにつまづかず、暴言や暴力に走ってしまう姿をよく見かけます。自分の思いを伝えることが不器用な子どもたちに戸惑うこともあります。面と向かって話をしていると、それぞれの思いを少しずつ話してくれ、スマホやSNSでしかつながっていない、本人は友人と思っているが、実は単なる知り合いではない人とは、信頼関係が構築できていないようです。だから、簡単に約束も破るし裏切り行為もあります。一度きりの人生で、本当の親友と呼べる仲間は絶対に必要です。たとえそれが悪さをした仲間であっても、自分がその人のために本当に泣けるか、何人が自分のために泣いてくれるかです。

話は戻りますが、侍ジャパンの栗山監督が言っていた、「信じて、任せて、感謝する」という言葉こそが、今の社会を明るくする原点ではないかと思っています。4月から新しい生活が始まっていることですが、お互いをよく知り、信じ合って楽しく生きていけることが一番ではないかと考えます。